

学校法人 了徳寺学園 柔道部新聞

2017年ブダペスト世界柔道選手権大会

-52 kg級 志々目愛

激戦を制し悲願の初V！



-52 kg級 角田夏実

次に繋がる準優勝！

8月28日（月）～9月3日（日）までハンガリーのブダペストにて世界柔道選手権大会が開催され、了徳寺学園より女子2名の選手が出場しました。

本学園柔道部としては昨年のリオデジャネイロオリンピックに代表を輩出することができなかった無念を晴らし頂点を掴み取りたい大会でもありました。全日本柔道史上、初となった同階級同所属出身による世界への挑戦は、両者が金メダルをかけて決勝で争うという最高の舞台となり、志々目愛が角田夏実を内股で下して、悲願の初優勝を飾りました。

52kg級 志々目 愛 : 優勝

初戦は 48kg 級のロンドンオリンピックチャンピオン・メネゼスとの対戦となりました。序盤から積極的に攻め、足を持ったことによる足取りの指導が相手に与えられます。その後も攻め続け、相手に場外による2度目の指導が与えられます。その後中盤に豪快な内股を極め、一本を奪って初戦を突破しました。



3回戦では序盤から志々目らしい組手で積極的に前に出て組んでいき、相手が下がったところで場外指導が与えられます。中盤、積極的に攻めますがポイントには届きません。リズムを掴み始めた終盤、小外刈で技ありを奪います。その後、相手がつぶれたところを寝技へ移行し、そのまま崩袈裟固に極めて準々決勝にコマを進めました。

準々決勝戦は、リオデジャネイロ五輪銅メダリストのクズティナとの対戦となりました。序盤、相手が組み手を徹底し、組ませてもらえない状態が続きます。中盤に相手に技をつながれ、志々目に指導が与えられます。更に志々目へ首抜き指導が与えられ、2度目の指導を受けます。後がない志々目は挽回しようと攻め込み、試合終了と同時に内股で技ありを奪い、逆転勝ちで厳しい戦いを制しました。



準決勝では昨年のリオ五輪、そして出場した 2013, 2014 年の世界選手権を連破している絶対女王、ケルメンディとの大一番を迎えました。ここでの戦いを想定し、徹底的に研究を重ねてきました。序盤、相手の組手となり、志々目に指導が与えられます。中盤に両者指導となり志々目に指導 2、相手に指導 1 となります。その後、お互い決め手のないまま勝負は延長戦に入ります。GS に突入後、積極的に攻め合う展開となります。少しずつ相手に疲れが見え、徐々に志々目がペースを握り始めます。リズムを掴んだ志々目は技をつなぎ、相手に指導が与えられ、指導 2 ずつで並びます。GS に突入し 5 分ほどたったところで相手が内股に来たところを上手く透かしながら押し込んで技ありを奪い、執念の勝利を掴み取りました。



決勝戦は、角田との 3 度目の対戦となりました。準決勝を勝利した志々目は、「ここまで来たら絶対負けられない」という強い意志を持ち試合へ挑みます。序盤、お互い組み手にこだわり、両者に指導が与えられます。中盤、角田が巴投で攻め、志々目にのみ 2 度目の指導が与えられます。その後、志々目が一瞬組み勝ったところに内股を掛け、豪快に決めて同門対決を制しました。厳しい戦いが続いた中で自分の持ち味である投げる力を十二分に駆使した素晴らしい柔道で、見事世界の座に輝きました。

2回戦	志々目 愛	○	一本勝(内股)	MENEZES (BRA)
3回戦	〃	○	一本勝(崩袈裟固)	SZABO (HUN)
準々決勝戦	〃	○	優勢勝(内股)	KUZIUTINA (RUS)
準決勝戦	〃	○	G S 優勢勝(内股透)	KELMENDI (KOS)
決勝戦	〃	○	一本勝(内股)	角田 夏実 (日本)

52kg 級 角田 夏実 : 準優勝

角田は初戦、いつも通りの落ち着いた表情でしっかりと組み、得意の巴投で技ありを奪います。その後寝技に移行して崩裂袈固で一本を奪い、幸先よく初戦を突破します。

2回戦の序盤、相手に片襟指導が与えられます。中盤になると、相手が不十分な組手のまま技をかけ、かけ逃げの指導が与えられ2回目の指導となります。後がない相手に対して角田は冷静に対応し、相手がつぶれたところに寝技を展開し、得意の腕挫十字固を極めて3回戦にコマを進めました。

3回戦は角田の得意の形になったところに巴投で技ありを奪い、そのまま腕挫十字固で一本勝ちとなりました。



準々決勝戦は、世界選手権で何度もメダルを獲得しているベテラン・ミランダとの対戦となりました。序盤、巴投で攻め込むものの相手も十分に対応し、ポイントを奪うまでには至りません。相手も低い背負投を中心に攻め返してきます。この展開が続き、お互い決め手がないままGSへ突入します。延長戦に入って角田がリズムを掴み始め、一度腕挫十字固が極まったように見えたが「待て」がかかり、

試合続行となります。その後巴投を掛け切って、見事に相手をとらえ、一本勝ちで準決勝に進出します。

準決勝は田中美衣がコーチを務めるイスラエルの選手との対戦を迎えました。序盤、巴投で攻め込みますが相手に徹底的に防御され、極めるまでには至りません。少し柔道が噛み合わない感覚がある角田は中盤、相手の組手を許し、指導が受けます。終盤になると徐々に角田がペースを掴み始め、残り30秒のところで巴投にて技ありを奪います。終盤間際にも大外刈で技ありを追加し、決勝進出を決めました。(決勝は上記に記載済み)



1回戦	角田 夏実	○	一本勝(崩裂袈固)		BALASANYAN (ARM)
2回戦	〃	○	一本勝(腕挫十字固)		FREITAS (POR)
3回戦	〃	○	一本勝(腕挫十字固)		DELGADO (USA)
準々決勝戦	〃	○	○GS 一本勝(巴投)		MIRANDA (BRA)
準決勝戦	〃	○	優勢勝(巴投)		COHEN (ISR)
決勝戦	〃		一本負(内股)	○	志々目 愛 (JPN)

志々目は、昨年終盤より苦しい戦いが続き、世界選手権への切符を最後の最後で掴み取りました。しかし代表決定後は試合まで順調に調整ができ、本番では内股を中心とした持ち味である投力を駆使して見事了徳寺学園5人目の世界チャンピオンに輝きました。角田は逆に一気に代表争いを駆け上り、世界への切符を掴みました。しかしその後は怪我と病気に見舞われ、厳しいコンディションの中での戦いを強いられましたが、しっかりと結果につなげることができました。2020年東京に向けて、これからも切磋琢磨しながら頂点を目指していきたいと思えます。

★★★★★★★★★★★★★★次回大会情報★★★★★★★★★★★★★★★★★★
 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 (2017年11月11日(土)・12日(日)於千葉ポートアリーナ)
 ☆出場選手 緒方 亜香里 志々目 徹 ヌンイラ 華蓮 渡邊勇人 阪本 健介
 ※千葉都市モノレール1号線「市役所前駅」下車 徒歩7分 応援よろしくお願いたします!